



医療関係者用

医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資料は医薬品リスク管理計画に基づき作成された資料です

自己注射/患者指導のための手引き

アクテムラ[®]皮下注162mgシリンジ
皮下注162mgオートインジェクター

— 目 次 —

自己注射への移行

自己注射について	04
自己注射導入について	05
自己注射の指導（トレーニング）	10

自己注射手順と指導のポイント

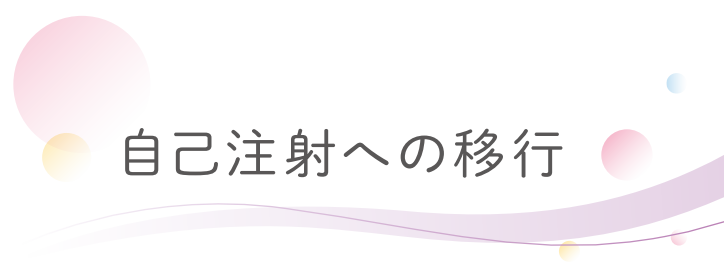
オートインジェクター

お薬の保管方法	14
注射の前に	16
注射のしかた	20
注射が終わったら	36

シリンジ

お薬の保管方法	42
注射の前に	44
注射のしかた	48
注射が終わったら	60

Q&A	64
---------------	----



自己注射への移行

自己注射とは、患者さんご自身やご家族によって行われる薬剤の注射のことです。アクテムラ皮下注162mgオートインジェクター、シリンジ（以下 アクテムラ皮下注）では、アクテムラが処方され、かつ医師により適用が妥当と判断された患者さんは、自己注射が可能です。自己注射への移行にあたっては、患者さんやご家族を十分にトレーニングし、自己注射についてご理解いただいた上で、手順を確実に習得していただってください。

なお、自己注射の継続が困難であると判断された場合や、自己注射への移行後に感染症などの副作用が疑われる場合には、直ちに自己注射を中止し、医師の指導のもと適切な処置を行ってください。

アクテムラ皮下注 自己注射に関連する電子化された添付文書の記載事項

8. 重要な基本的注意（一部抜粋）

〈効能共通〉

8.13 本剤の投与開始にあたっては、医療施設において、必ず医師によるか、医師の直接の監督のもとで投与を行うこと。自己投与の適用については、医師がその妥当性を慎重に検討し、十分な教育訓練を実施した後、本剤投与による危険性と対処法について患者が理解し、患者自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。

自己投与の適用後、感染症等の本剤による副作用が疑われる場合や自己投与の継続が困難な状況となる可能性がある場合には、直ちに自己投与を中止させ、医師の管理下で慎重に観察するなど適切な処置を行うこと。また、本剤投与後に副作用の発現が疑われる場合は、医療機関へ連絡するよう患者に指導を行うこと。使用済みの注射器を再使用しないように患者に注意を促し、すべての器具の安全な廃棄方法に関する指導の徹底を行うと同時に、使用済みの注射器を廃棄する容器を提供すること。

アクテムラ皮下注電子化された添付文書（2023年4月改訂、第3版）

1 自己注射導入のステップ

自己注射導入までのステップを、事前に患者さんやご家族にご理解いただく必要があります。自己注射トレーニングの回数や時間が患者さんによって異なる点や、手順を完全に習得するまではトレーニングを継続的に行う必要があることをご説明ください。

院内にてアクテムラの通院投与開始



主治医によるアクテムラ自己注射についての説明



自己注射の実施を決定



院内にて自己注射トレーニングを開始



自己注射手順習得の確認



自己注射の開始

2 用法及び用量について

アクテムラを自己注射により投与する場合、あらかじめオートインジェクターまたはシリンジに充填されたアクテムラ162mgを1回の皮下注射で投与します。患者さんやご家族が主治医、看護師、薬剤師の指示した用法及び用量を遵守し、自己判断で薬液量や投与量や投与間隔を調節することなく、正しく自己注射できるようご指導ください。

アクテムラ皮下注 自己注射に関連する電子化された添付文書の記載事項

7. 用法及び用量に関連する注意(一部抜粋)

〈効能共通〉

7.1 血清中トシリズマブ濃度が維持されない状態で投与を継続すると、抗トシリズマブ抗体が発現する可能性が高くなるため、用法・用量を遵守すること。

8. 重要な基本的注意(一部抜粋)

〈効能共通〉

8.3 本剤投与後、注射部位反応(紅斑、痒痒感、血腫、腫脹、出血、疼痛等)が発現することが報告されていることから、投与にあたっては、注射部位反応の発現に注意し、必要に応じて適切な処置を行うこと。[14.2.1 参照]

14. 適用上の注意

14.1 薬剤投与前の注意

14.1.1 アクテムラ皮下注162mgオートインジェクターの使用にあたっては、必ず添付の使用説明書を読むこと。

14.1.2 室温に戻しておくこと。

14.1.3 投与直前まで本剤の注射針のキャップを外さないこと。キャップを外したら直ちに投与すること。

14.2 薬剤投与時の注意

14.2.1 注射部位は、腹部、大腿部又は上腕部を選ぶこと。注射部位反応が報告されているので、同一箇所へ繰り返し注射することは避け、新たな注射部位は前回の注射部位から少なくとも3cm離すこと。[8.3 参照]

14.2.2 皮膚が敏感な部位、皮膚に異常のある部位(傷、発疹、発赤、硬結等)には注射しないこと。

14.2.3 他の薬剤と混合しないこと。

14.2.4 本剤は、1回で全量を使用する製剤であり、再使用しないこと。

14.2.5 注射器を分解しないこと。

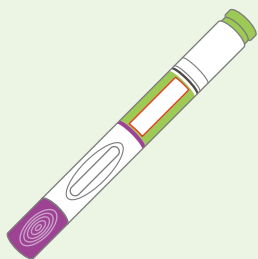
14.3 薬剤交付時の注意

14.3.1 患者が家庭で保存する場合は、本剤は外箱に入れた状態で、凍結を避け、冷蔵庫内で保管すること。やむを得ず室温(30℃以下)で保存する場合は、室温保存期間の累積として14日以内に使用すること。

3 オートインジェクター・シリンジの選択

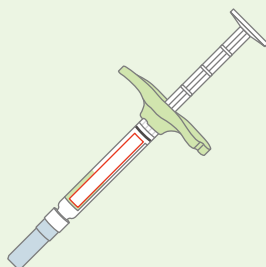
アクテムラ皮下注には、オートインジェクターとシリンジの2種類があります。患者さんに応じて適切に選択してください。

オートインジェクターについて



- アクテムラ皮下注 162mg オートインジェクターには1回の注射に適した薬液があらかじめ充填されており、注射時の調製が不要です。
- 注入ボタンを押すことにより、手の動きや力に制限のある患者さんでも皮下注射ができます。
- 針刺し事故を防止する機能も付いています。
- 自己注射を確実に行っていただくためのサポートとして、注射補助具（アタッチメントまたは注射補助グリップ）もあります。
- 遮光・冷蔵保存が必要ですので箱のまま患者さんにお渡しください。

シリンジについて



- アクテムラ皮下注 162mg シリンジには1回の注射に適した薬液があらかじめ充填されており、注射時の調製が不要です。
- キャップを、持ちやすく、真っすぐ引き抜きやすい構造に改良しました。
- 自己注射を安全に行っていただくためのサポートとして、専用自己注射補助具（アクテミー）もあります。
- アクテミーを使用することで、患者さんの注射手技にあわせ、両手でも、片手でも注射が可能です。
- 遮光・冷蔵保存が必要ですので箱のまま患者さんにお渡しください。

4 自己注射で注意すべき点

アクテムラの自己注射の開始にあたり、以下の点について患者さんやご家族にご理解いただく必要があります。

副作用の発見や対応

自己注射を行うことで、通院にともなう患者さんのご負担は軽減されますが、その反面、ご自身の体調の変化に気づきにくかったり、副作用の発見が遅れたりすることもあります。

特に以下の点をご指導ください

- アクテムラの投与中に以下のような体調の変化を感じたら、投与を中止して、次の診療日を待たず、すぐに主治医、看護師、薬剤師に連絡するよう指導ください。
 - かぜのような症状がある（発熱やせき、疲れやすいなど）
 - 息苦しさやめまい、心臓がドキドキするなどの症状がある
 - 発疹やかゆみがある
- 体調チェック表に注射の記録をしっかりと残し、診察時には必ず主治医に提出してください。

自己注射にともなう事故などの防止

自己注射では、患者さんやご家族により薬液の保管や注射が行われるため、事故などが発生するおそれもあります。

特に以下の点をご指導ください

- 正しく安全に自己注射ができるようになるまで、主治医または看護師の指導のもと、手順を習得してください。
 - 薬液の保管に誤りがないか
 - 針刺し事故の危険性がないか
 - 注射器を正しく使用できているか
 - 使用済み注射器を正しく廃棄できているか
- 自己注射がうまくできなかったり、わからなくなったりした場合は、すぐに主治医、看護師、薬剤師に連絡してください。アクテムラ®自己注射サポートセンターも開設しています。

5 自己注射を継続していただくために

自己注射を開始しても、途中で通院治療に切り替える場合もあることを患者さんやご家族にご説明ください。

- 患者さんやご家族が自己注射を適切に実施継続できないと判断された場合
- 患者さんやご家族が通院による投与への変更を希望し、主治医がそれを認めた場合
- 主治医が通院による投与のほうが望ましいと判断した場合

自己注射を継続できるように、下記の項目について遵守するよう指導し、定期的に確認してください。

継続に問題があると判断される場合は、通院による投与に切り替えてください。

- 問題があったときに、主治医または看護師から再度自己注射のための指導を受けること
- 用法及び用量を守ること
- 自己注射の実施状況や体調の変化を体調チェック表に記録し、定期的に主治医へ提出すること
- 薬液を患者間で流用しないこと
- 使用済みの注射器は主治医、看護師、薬剤師の指示に従って廃棄すること

●自己注射の手技に関するお問い合わせについては、「アクテムラ®自己注射サポートセンター」で受け付けています。

自己注射の手技に関するお問い合わせ

アクテムラ®自己注射サポートセンター



0120-229-790

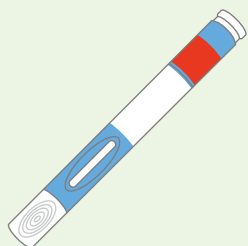
24時間受付・通話無料

自己注射の指導（トレーニング）

1 自己注射指導（トレーニング）の資材

自己注射のトレーニングは、患者さんやご家族が自己注射手順を完全に理解・習得するまで継続して行います。自己注射導入のための資材をご用意していますので、指導の際にご活用ください。

<医療従事者向け（トレーニング用）>



自己注射練習用
オートインジェクター
（針なし）

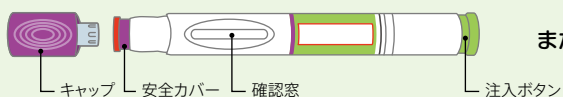


自己注射/患者指導のための
手引き（本冊子）

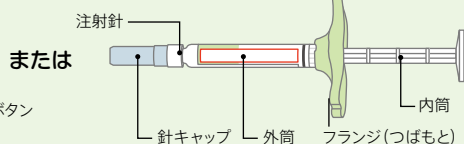
<患者さん向け（スターターキット）>

● アクテムラ皮下注（患者さんによっていずれかが配付される）

● オートインジェクター

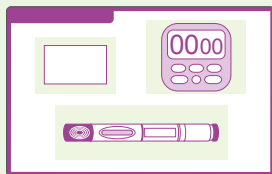


● シリンジ



● 必ず配付されるもの

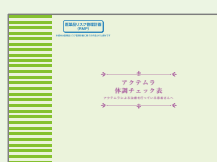
● 準備マット



● タイマー



● 体調チェック表



● アルコール綿



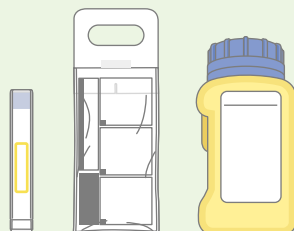
● 自己注射ガイドブック



● 自己注射方法の解説動画のご案内

● 廃棄容器（オートインジェクター、シリンジによりいずれかが配付される）

オートインジェクターの場合



シリンジの場合

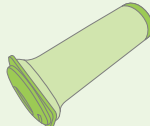


● 必要な患者さんに配付されるもの

● 注射補助具（アタッチメントまたは注射補助グリップ）



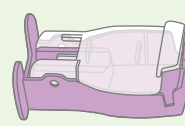
または



（オートインジェクター用）

● 注射補助具（アクテミー）

もしくは



（シリンジ用）

2 自己注射指導（トレーニング）実施内容の確認

以下のような流れで自己注射のトレーニングを行います。

STEP
1

必要な器具の準備・確認

スターターキットを準備し、各器具の名称・用途を説明します。

STEP
2

主治医または看護師によるデモンストレーション

自己注射ガイドブックに沿って主治医または看護師が自己注射のデモンストレーションを行います。

※自己注射練習用のオートインジェクターを使用します。

STEP
3

患者さんまたはご家族の実技

主治医または看護師がデモンストレーションを行ったとおりに、患者さんまたはご家族に自己注射の練習を行ってもらいます。その際に、安全な操作が行えるように指導します。

STEP
4

自己注射手順の確認

チェック項目例

患者さんへ下記項目を指導しているか、チェックしましょう

- ☐ 注射間隔について指導しましたか
- ☐ 注射部位を確認することを伝えましたか
- ☐ 注射前に注射器の状態を確認するよう指導しましたか
- ☐ 適切な部位の消毒を指導しましたか
- ☐ 正しい角度で注射針を刺入するよう指導しましたか
- ☐ 注射器の操作手順を習得してもらいましたか
- ☐ 注射器の正しい廃棄方法を伝えましたか
- ☐ 体調管理をこまめにするよう伝えましたか
- ☐ 体調チェック表へ必ず記入するように指導しましたか



自己注射手順と 指導のポイント

自己注射手順と指導のポイント

患者さん向け「自己注射ガイドブック」に沿ってアクテムラ自己注射指導のポイントを示します。
患者さんへの指導にお役立てください。

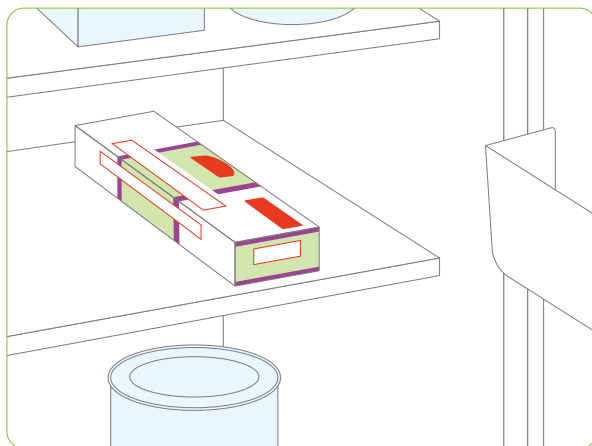
お薬の保管方法(オートインジェクター)

お薬の保管方法

オートインジェクターは、病院・薬局から帰宅後速やかに、箱のまま冷蔵庫^{※1}(2～8℃)で保管してください。
やむを得ず室温(30℃以下)で保存する場合は、14日以内に使用してください。14日以内に使用しない場合は、再度冷蔵保存(2～8℃)することも可能ですが、室温での保存が累積^{※2}14日を超えた場合には破棄してください。

※1 チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には入れないでください。(お薬が凍結してしまうおそれがあります)

※2 室温保存した合計日数



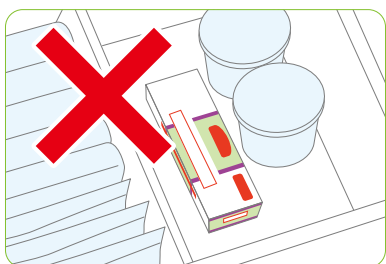
オートインジェクターは、箱のまま冷蔵庫で保管してください。

3

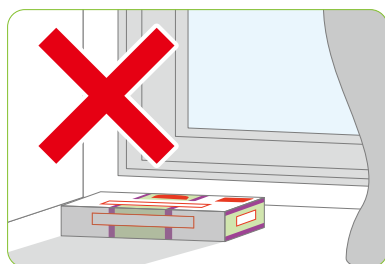
指導のポイント

- 冷蔵庫での保管を守っていただき、薬剤が冷蔵庫に保管されていることをご家族全員に伝えていただくようにご指導ください。
- やむを得ず室温(30℃以下)で保存する場合は、14日以内に使用するようにご指導ください。

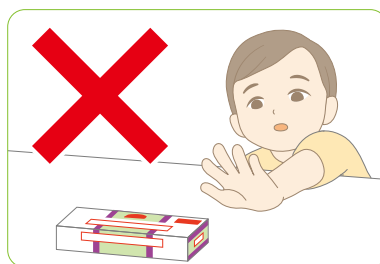
保管に関する注意



冷凍庫には入れないでください。
(お薬が凍結してしまうおそれがあります)



直射日光の当たる場所に置かないでください。
(お薬が変性してしまうおそれがあります)



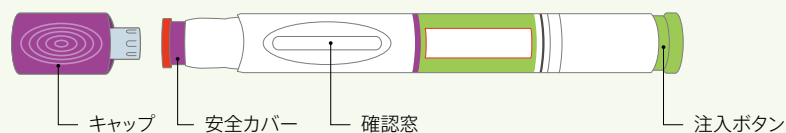
- お薬の入った箱が冷蔵庫内に保管されていることを、ご家族全員に伝えてください。
- 特に、小さなお子さんがあるご家庭では、お子さんがお薬の箱やオートインジェクターにさわることがないように十分ご注意ください。

注射の前に(オートインジェクター)

注射に必要なもの

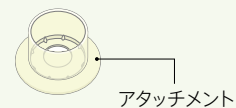
●オートインジェクター ●準備マット ●タイマー ●アルコール綿 ●注射補助具(アタッチメントまたは注射

●オートインジェクター

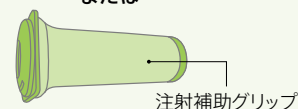


●注射補助具

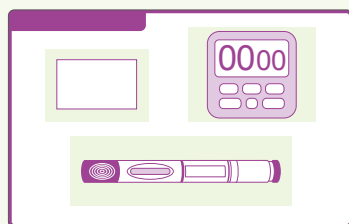
(アタッチメントまたは注射補助グリップ)



または



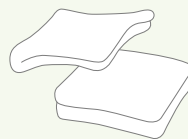
●準備マット



●タイマー



●アルコール綿



医療機関から提供されない場合は主治医または看護師にご相談ください。

必要な患者さんのみ医療機関から提供されます。



●アタッチメントと注射補助グリップを一緒に使用することは、針刺し事故や誤作動などの原因となりますのでお止めください。

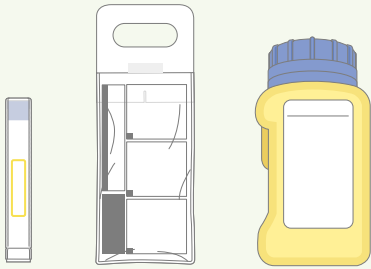
5

指導のポイント

- 患者さんに、ご使用になるオートインジェクターの仕組みをしっかりご理解いただき、注射に必要な器具とその用途を覚えていただくようにご指導ください。

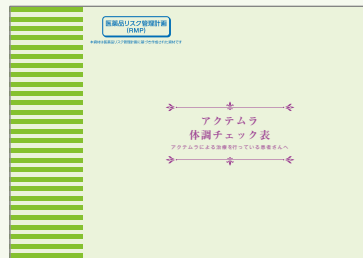
補助グリップ) ● 廃棄ケース、廃棄袋、廃棄ボックスなど ● 体調チェック表

● 廃棄容器
(廃棄ケース、廃棄袋、廃棄ボックス)



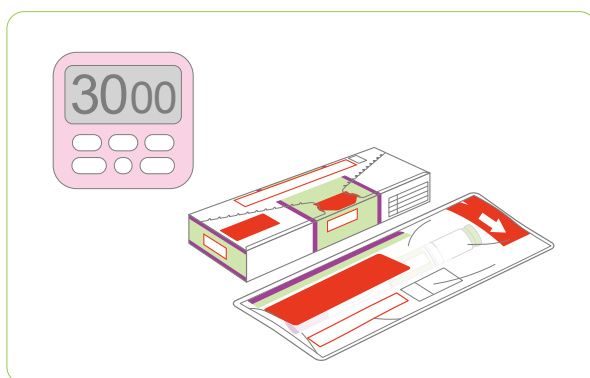
いずれかの廃棄容器が医療機関から提供されます。

● 体調チェック表



注射の前に(オートインジェクター)

注射の準備



① オートインジェクターの入った箱を冷蔵庫から取り出し、箱からオートインジェクターを出して、30分かけて室温に戻します。



② 注射する場所は、明るく、安定したテーブルを使います。テーブルの表面を清潔にします。



- 室温に戻している間は、オートインジェクターが入っている袋を開けないでください。
- 電子レンジや湯せんでオートインジェクターを温めないでください。
- オートインジェクターを振らないでください。

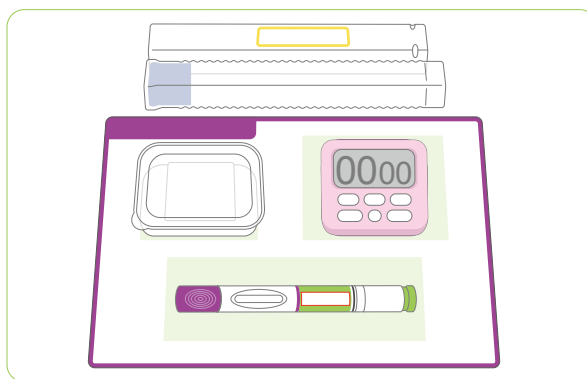
7

指導のポイント

- オートインジェクターを室温に戻す際には、箱からオートインジェクターが入っている包装を出すようにご指導ください。
- 衛生面の観点から、オートインジェクターが入っている包装は注射の直前に開封するようにご指導ください。
- 注射は、常に清潔な場所で行うようにご指導ください。



3 両手を石鹸で十分に洗い、清潔なタオルで拭きます。



4 オートインジェクターを室温に戻したら、袋からオートインジェクター本体を取り出します。
テーブルに準備マットを敷き、イラストの上に自己注射に使用する器具一式を並べます。
オートインジェクター、アルコール綿、そして廃棄容器が揃っているかを確認します。



●この時点では、まだオートインジェクターのキャップをはずさないでください。

8

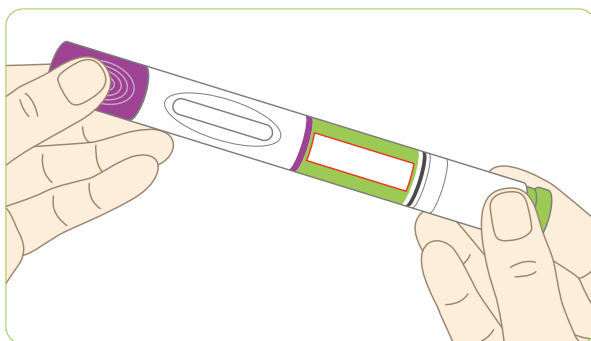
指導のポイント

- 清潔保持と針刺し事故防止のため、注射の直前まではオートインジェクターのキャップをはずして注射針をさらしたり、誤って指で触れないようにご指導ください。
- 薬液が室温に戻る前にキャップをはずしたり、キャップをはずして放置することは、針詰まりの原因になります。注射の際には、オートインジェクターを必ず30分かけて室温に戻し、キャップをはずした後は直ちに注射を実施するよう、患者さんにご指導ください。

注射のしかた(オートインジェクター)

注射前のオートインジェクターと薬液の確認

注射の前にオートインジェクターと薬液について異常がないかを確認します。



以下の場合、使用せずに医療機関に連絡してください。



- オートインジェクターが破損している。
- オートインジェクターのラベルに記載されている使用期限が切れている。
- 確認窓から見える薬液が濁っている。
- 薬液が変色している。
(通常は、無色透明～微黄色)
- 薬液に異物が混じっている。
(薬液中に気泡が見られることがありますが、問題ありません)

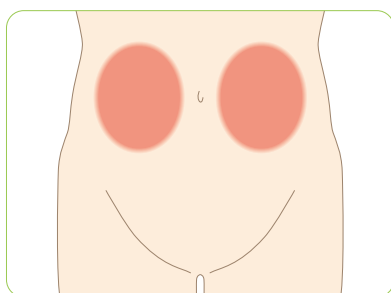
9

指導のポイント

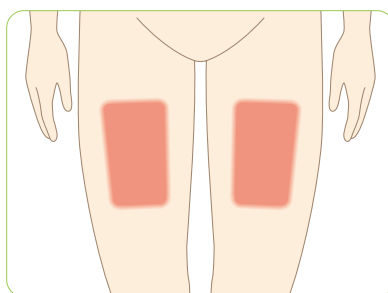
- オートインジェクターには、あらかじめ1回の注射に適した薬液量が充填されています。
- 患者さんやご家族が、自己判断で薬液量を調節することのないようにご指導ください。

注射する部位の確認と消毒

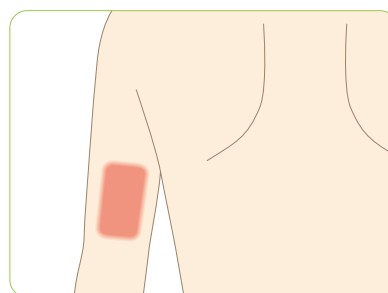
「腹部」「大腿部（太もも）」「上腕部（二の腕）」のいずれかに注射することが可能です。
どこに注射するかは主治医または看護師の指示に従います。



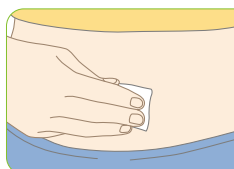
腹部



大腿部



上腕部



注射する部位とその周辺を、アルコール綿で十分に消毒します。消毒したところは、注射するまで手を触れないでください。



- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適しません。
- 医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。

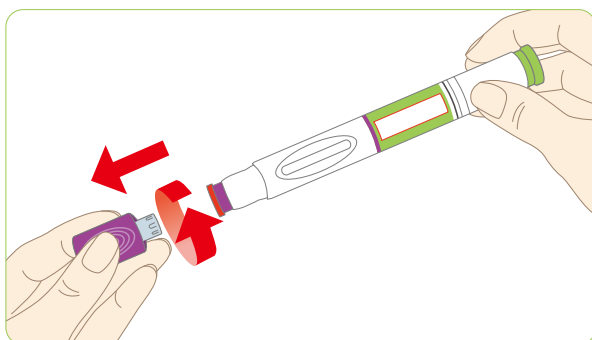
10

指導のポイント

- 他の製剤を併用している場合や継続して自己注射を行っている場合は、注射部位をよく観察し、適切な部位を選ぶようにご指導ください。
- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していないこと、上腕部に注射する場合は、医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いすることをご指導ください。

注射のしかた(オートインジェクター)

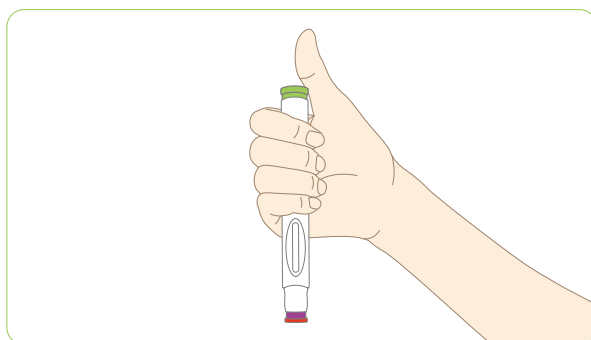
基本的な注射のしかた



- ① オートインジェクターのキャップをはずします。**
オートインジェクター本体をしっかり持って、キャップの滑り止め部分に指をあて、軽くひねりながら横に引っ張るとスムーズにキャップをはずせます。



● キャップをはずしたら、すぐに注射してください。
キャップをはずしたまま放置すると薬液が固まるおそれがあります。



- ② オートインジェクターを正しく持ちます。**
緑色の注入ボタンが上になるように、正しく握っているかを確認します。



● オートインジェクターを逆さまに持たないように注意してください。
指に針が刺さるおそれがあります。



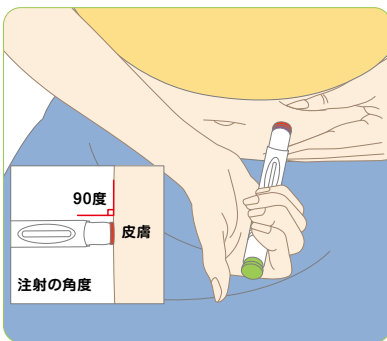
11

指導のポイント

- オートインジェクターは、薬液を自動的に注入する注射器です。誤った使用により、誤作動を引き起こすおそれがありますので、正しい使用法を覚えていただくようにご指導ください。
- キャップをはずして放置することは、針詰まりの原因になります。キャップをはずした後は直ちに注射を実施するよう、患者さんにご指導ください。
- オートインジェクターの使用経験があり自己注射の経験が十分ある患者さんにおいても、針刺し事故が発生しています。正しい使用方法の指導は継続して行ってください。

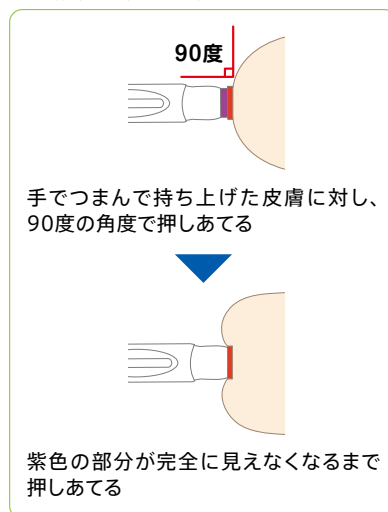
ロック解除が難しい場合は、アタッチメントを使用することができます。(P19参照)

● 注射のようす



皮膚を持ち上げて
オートインジェクターを押しあてる。

● 注射の角度とロックの解除 (横から見た図)



③ 消毒した注射部位の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあてます。

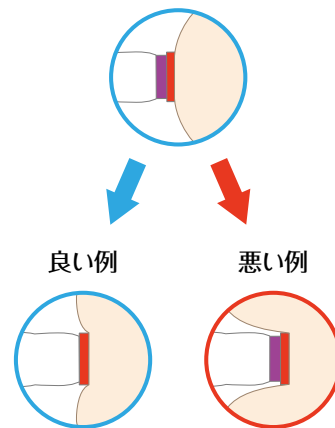
安全カバーの紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてると、ロックが解除され、注入ボタンを押すことができます。



● 皮膚に押しあてるときは、注入ボタンに指をかけないようにしてください。

● ロックの解除のめやす

安全カバーの紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてないと、注入ボタンのロックが解除できない仕組みになっています。



先端部が皮膚に
しっかり押しあてら
れており、ロックが
解除された状態

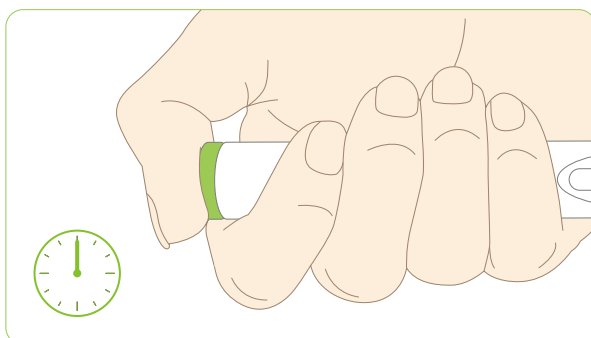
先端部が皮膚に
十分に押しあてられ
ておらず、ロックが解除
されていない状態

指導のポイント

- 自己注射を安全に行うために、正しい注射針の刺入角度、深度などをご指導ください。
- 安全カバーの紫色の部分が完全に見えなくなるまで押しあてないと注入ボタンのロックが解除できない仕組みを、必ずご理解いただくようにしてください。

注射のしかた(オートインジェクター)

基本的な注射のしかた(続き)

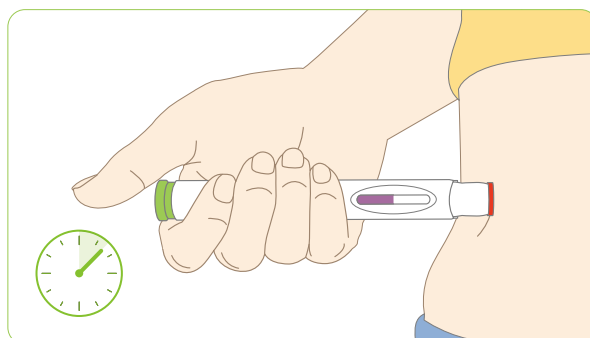


4 注入ボタンを押すと、「カチッ」(1回目)と音がして、薬液の注入が始まります。

注入ボタンを押した後、もしくは、すぐに指を離すことが難しい場合は注入が完了したら、必ず注入ボタンから指を離すようにしてください。注入ボタンから指を離すことで安全カバーのロックがかかります。



● すぐに指を離すことが難しい場合は、注入が完了したら必ず注入ボタンから指を離すようにしてください。



5 薬液の注入には15秒間かかります。

- 注入が終わるまでオートインジェクターをしっかりと皮膚に押しあてた状態を保ち、先端が皮膚から離れないようにしてください。
- タイマーなどを使用して、しっかり15秒間計ってください。
- 薬液の注入中に「カチッ」(2回目)と音がすることがありますが、安全カバーにロックがかかる音であり、注入が終了したわけではありません。



● 必ず15秒間は、オートインジェクターをしっかりと皮膚に押しあて続けてください。

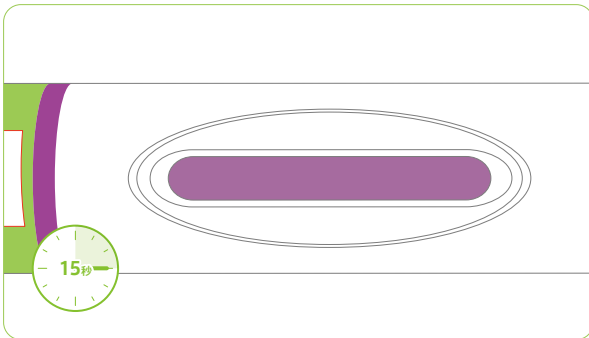
● 途中で先端を皮膚から離すと、薬液が漏れてしまいます。



13

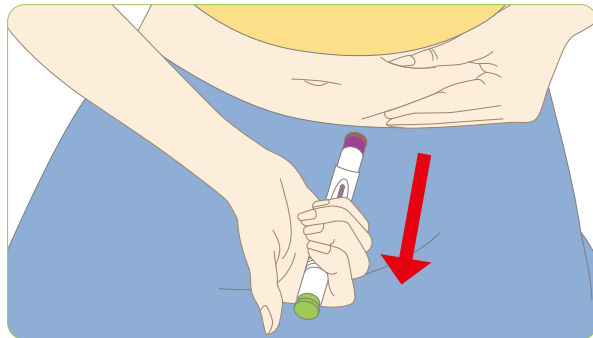
指導のポイント

- 注入ボタンを押した後に指を離さずにいると、注入終了後、安全カバーにロックがかからない可能性があります。
- 注入ボタンを押したら、安全カバーのロックをかけるために注入ボタンから指を離すようにご指導ください。すぐに指を離すことが難しい場合には、注入が完了したら必ず注入ボタンから指を離すようにご指導ください。
- タイマーなどを使用して15秒間を計り、その間はオートインジェクターをしっかりと皮膚に押しあて続けることをご指導ください。



- 6** 注入が終わると確認窓の中の確認バーが下がりきり、確認窓が完全に紫色になります。

確認窓が完全に紫色になったことを確認してください。

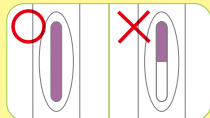


- 7** 注入が終わったら、オートインジェクターを注射部位からまっすぐに離し、注射針を抜きます。

その後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。
アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。



- 確認窓全体が紫色になっていない場合は、医療機関に連絡してください。



- 注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。

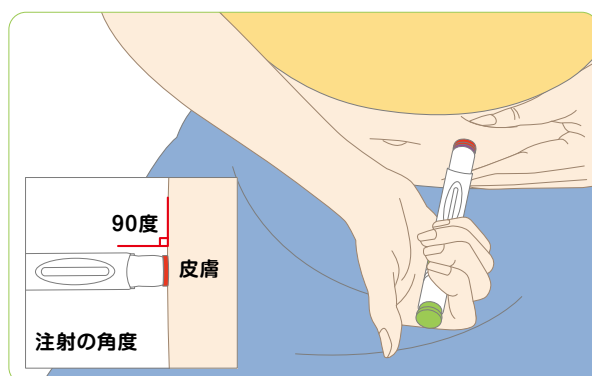


注射のしかた(オートインジェクター) 腹部



腹部への注射

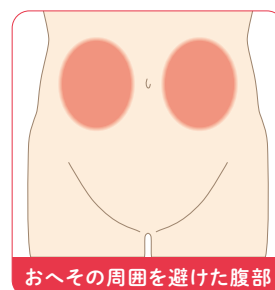
- 前から見た腹部への注射のしかた



消毒した腹部の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあてます。

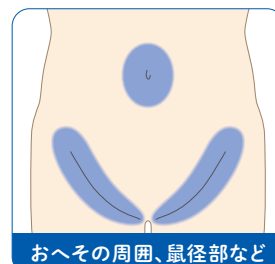
注射すべき部位

- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



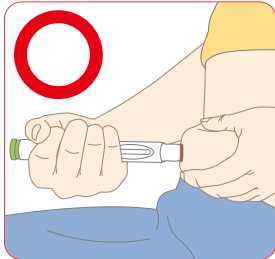
避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。

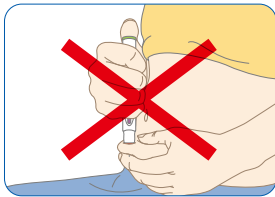


● 横から見た腹部への注射のしかた

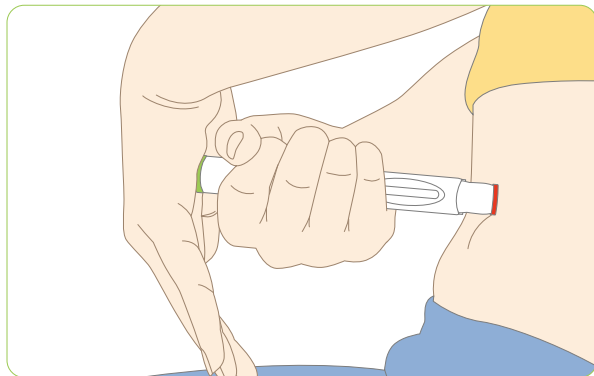
- つまんだ皮膚に対して、90度の角度で押しあてます。



- つまんだ皮膚に対して、真上からオートインジェクターを押しあてないでください。
- 適切な部位に薬液が入らないおそれがあります。
- また、皮膚を貫通して、指などへの針刺しの原因となります。



● 片手で注射することが難しい場合



オートインジェクターを握っている手と反対手のひらで注入ボタンを押すこともできます。

16

指導のポイント

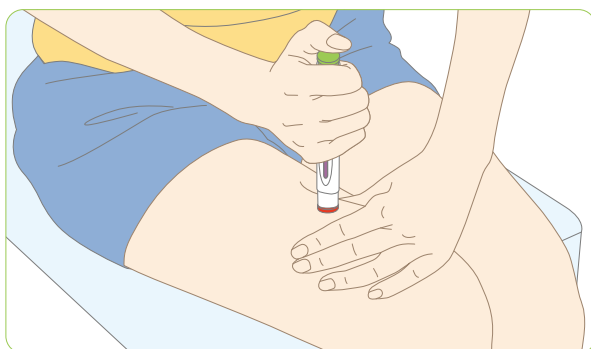
- 腹部への注射の際は、つまんだ皮膚に対して、真上からオートインジェクターを押しあてないようにご指導ください。

注射のしかた(オートインジェクター) 大腿部



大腿部(太もも)への注射

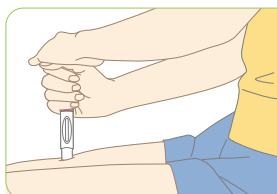
大腿部に注射する場合は、オートインジェクターを押し付けず、オートインジェクターを握っている手と反対の手で皮膚をしっかり持ち上げて注射してください。



消毒した大腿部の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあて、注入ボタンを押してください。

※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

● 片手で注射することが難しい場合



● オートインジェクターを握っている手と反対の手のひらで注入ボタンを押すこともできます。

● やせている方で大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は推奨できません。

注射すべき部位

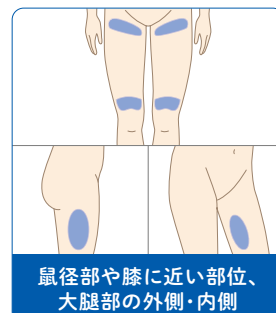
- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



大腿部の前面

避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。



鼠径部や膝に近い部位、
大腿部の外側・内側

17

指導のポイント

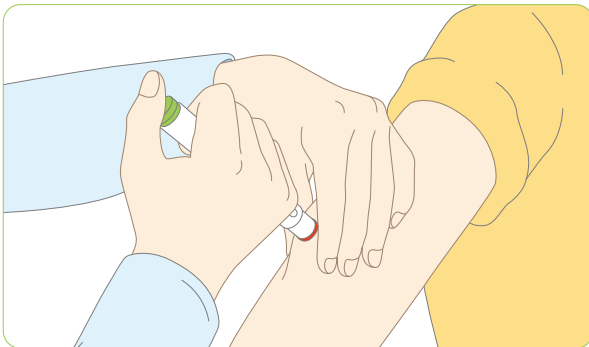
- 大腿部に注射する場合、適切な部位に注射するようにご指導ください。
- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようにご指導ください。
- 片手で注射することが難しい場合、両手で注射することも可能です。この場合、オートインジェクターが投与部位に強く押しあてられ、注射針が骨に接触する可能性があります。やせていて大腿部の皮下脂肪が少ない患者さんには、この注射方法は推奨できません。

注射のしかた(オートインジェクター) 上腕部



上腕部への注射

上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していません。
医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。



ご家族の方が、消毒した上腕部(力こぶができない側のやわらかい部位)の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して90度の角度で、オートインジェクターの安全カバーを注射部位に押しあて、注入ボタンを押してください。

※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

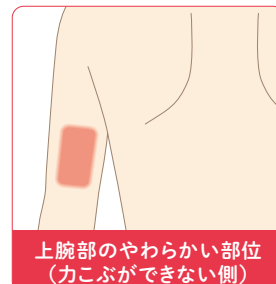


● やせている方で上腕部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は適しません。



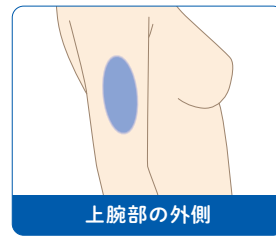
注射すべき部位

- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。

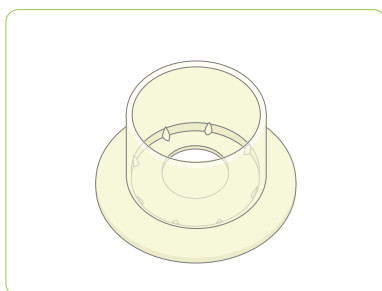


指導のポイント

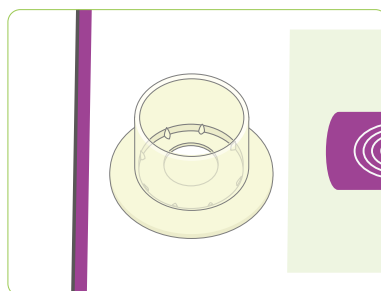
- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していないこと、上腕部に注射する場合は、医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いすることをご指導ください。
- 上腕部に注射する場合、適切な部位に注射するようにご指導ください。
- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようにご指導ください。
- 皮下脂肪が少ない部位へ注射すると、注射針が骨に接触する可能性があります。やせていて上腕部の皮下脂肪が少ない患者さんには、この注射方法は推奨できません。

注射のしかた(オートインジェクター) 注射補助具(アタッチメント)を使う場合

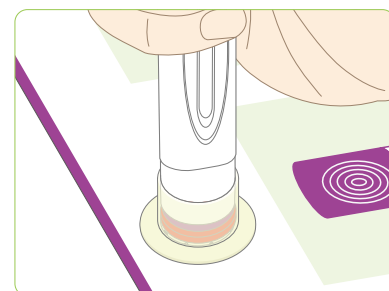
注射補助具(アタッチメント)が必要な方は、医療機関にお問い合わせください。



自己注射を確実に行っていただくためのサポートとして、アクテムラ皮下注オートインジェクター専用アタッチメントがあります。オートインジェクターを皮膚に押しあてた際に、安全カバーをしっかりと押し込むことが困難な方がご使用になるツールです。



① 準備マットの上にアタッチメントを置き、オートインジェクターにアタッチメントを取り付ける準備をします。

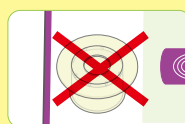


② アタッチメントの穴に、オートインジェクターの先端をまっすぐに差し込みます。

- アタッチメントと注射補助グリップを一緒に使用することは、針刺し事故や誤作動などの原因となりますのでお止めください。



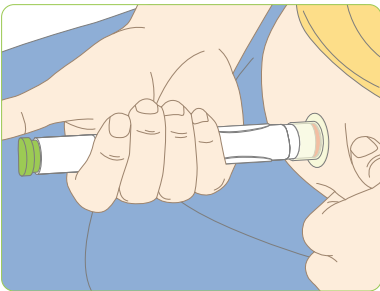
- アタッチメントを逆さまに置かないでください。



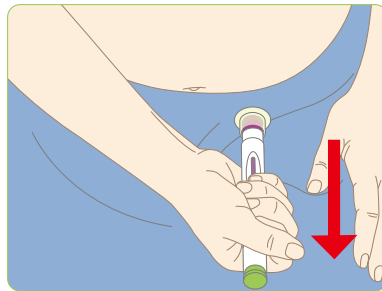
- アタッチメントがオートインジェクターの先端にしっかり装着されたことを確認してください。
- アタッチメントをセットする際には、注入ボタンに指をかけないでください。



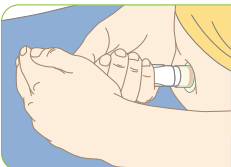
注射補助具（アタッチメント）を使用する場合も、オートインジェクターの基本的な注射のしかたについては、P11～14をご覧ください。



- 3 消毒した皮膚をしっかり持ち上げ、オートインジェクターを皮膚に対して90度の角度で押しあて、注射します。



- 4 注射が終わったら、オートインジェクターを注射部位からまっすぐに離し、針を抜いてください。



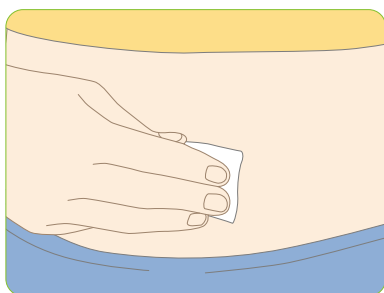
オートインジェクターを握っている反対手のひらで注入ボタンを押して注射することもできます。

指導のポイント

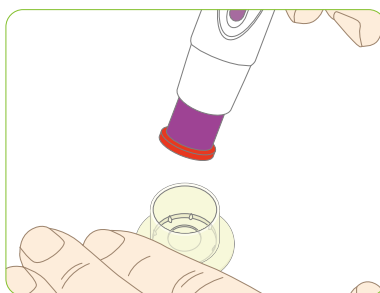
- アタッチメントを使用する場合は、アタッチメントもあらかじめアルコール綿で拭いて消毒を行うことをご理解いただくようにしてください。
- 針刺し事故や誤作動などの原因となるため、アタッチメントと注射補助グリップを一緒に使用しないようにご指導ください。
- アタッチメントを使用する際は、オートインジェクターを90度の角度でまっすぐ刺すことをご指導ください。

注射のしかた(オートインジェクター) 注射補助具(アタッチメント)を使う場合

注射補助具(アタッチメント)が必要な方は、医療機関にお問い合わせください。



- 5 針を抜いた後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。



- 6 注射が終わったら、オートインジェクターからアタッチメントをはずします。アタッチメントを押さえ、オートインジェクターを斜めにしてはせずとはずしやすくなります。このとき、針に触れないように十分注意してください。



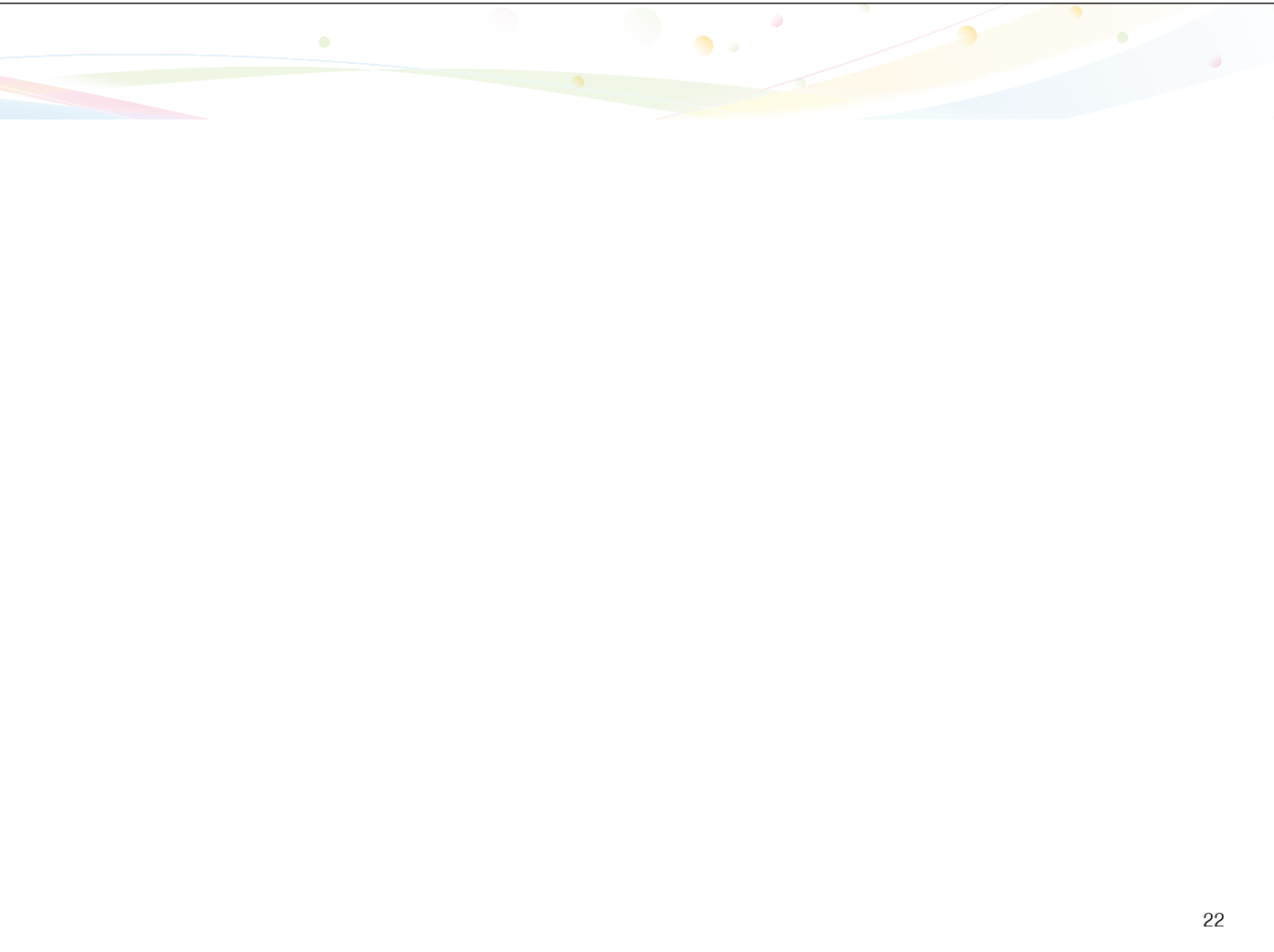
● 注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。



21

指導のポイント

- アタッチメントをはずす際には、くれぐれも針に触れないようにご指導ください。



オートインジェクター

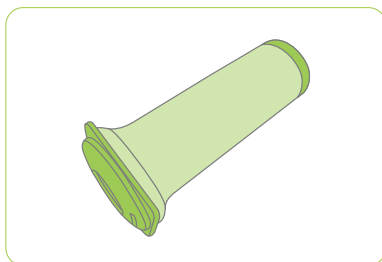
注射器（シリンジ）

Q & A

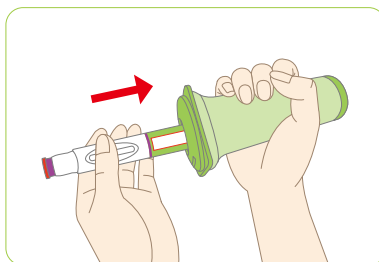
注射のしかた(オートインジェクター)注射補助具(注射補助グリップ)を使う場合

注射補助具(注射補助グリップ)が必要な方は、医療機関にお問い合わせください。

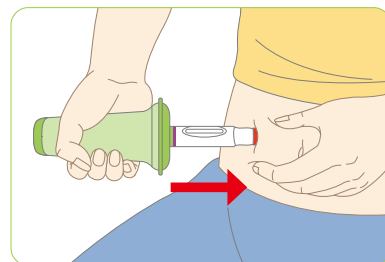
注射補助具(注射補助グリップ)を使用する場合も、オートインジェクターの基本的な注射のしかたについては、P11～14をご覧ください。



自己注射を確実に行っていただくためのサポートとして、注射補助グリップがあります。オートインジェクターを皮膚に押しあてた際に、注入ボタンを押すことが困難な方がご使用になるツールです。



1 注射補助グリップをしっかりとって、オートインジェクターの安全カバーおよび先端部分には触れないように注意をしながら、注射補助グリップの挿入口から奥までオートインジェクターを差し込みます。装着完了後は、速やかに注射をしてください。

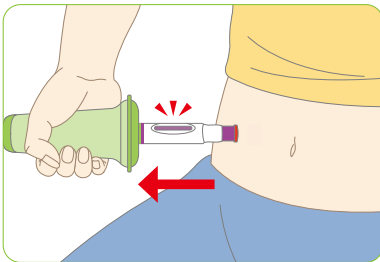


2 消毒した皮膚をしっかりと持ち上げ、注射補助グリップを握り、皮膚に対して90度の角度でオートインジェクターの安全カバー部分を注射部位に押しあて、注射します。

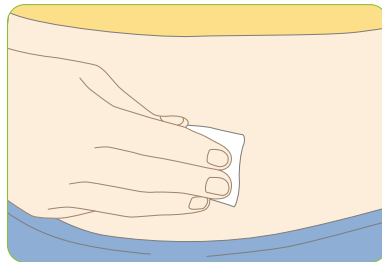


● アタッチメントと注射補助グリップを一緒に使用することは、針刺し事故や誤作動などの原因となりますのでお止めください。

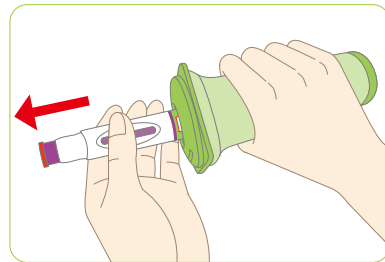




- ③ 注射が終わったら、オートインジェクターを注射部位からまっすぐに離し、針を抜いてください。



- ④ 針を抜いた後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。



- ⑤ 注射が終わったら、オートインジェクターから注射補助グリップをはずします。注射補助グリップをしっかり持ち、オートインジェクターを引き抜きます。このとき、針に触れないように十分注意してください。



● 注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。



24

指導のポイント

- 注射補助グリップを使用する場合は、注射補助グリップもあらかじめアルコール綿で拭いて消毒を行うことをご理解いただくようにしてください。
- 針刺し事故や誤作動などの原因となるため、アタッチメントと注射補助グリップを一緒に使用しないようにご指導ください。
- 注射補助グリップを使用する際は、オートインジェクターを90度の角度でまっすぐ刺すことをご指導ください。

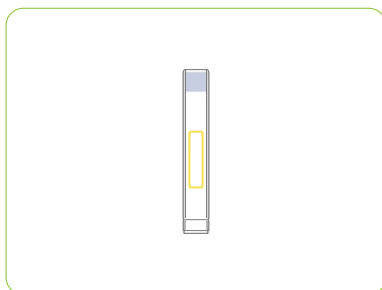
注射が終わったら(オートインジェクター)

オートインジェクターの廃棄

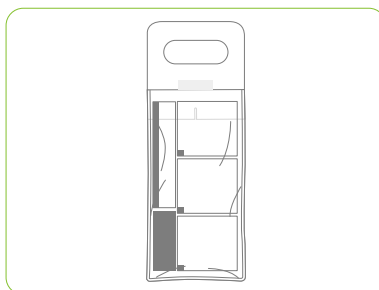
使い終わったオートインジェクターは、廃棄容器にすぐに廃棄します。

いずれかの廃棄容器が医療機関から提供されます。

● 廃棄ケース



● 廃棄袋

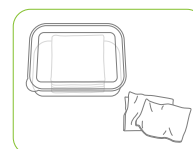


● 廃棄ボックス



● 使用済みアルコール綿の廃棄

使用済みのアルコール綿は、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示が特にならない限り、家庭ごみとして各市区町村の収集方法に従って捨ててください。



●使用済みのオートインジェクターは医療廃棄物です。医療廃棄物および廃棄容器の取り扱いには十分注意し、処理については主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示に従ってください。

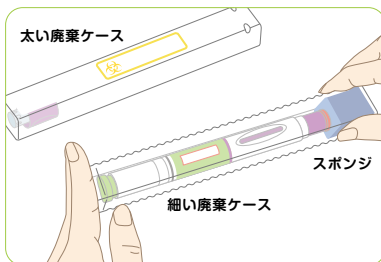
25

指導のポイント

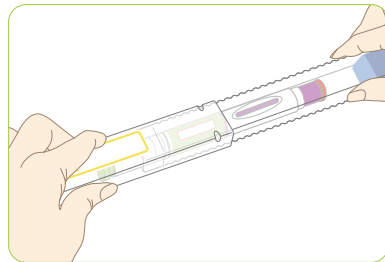
- 使用済みのオートインジェクターは医療廃棄物です。注射針による針刺し事故などを防止するため、医療廃棄物の管理には十分注意し、必ず医療機関へ持参するようにご指導ください。

廃棄ケースの場合

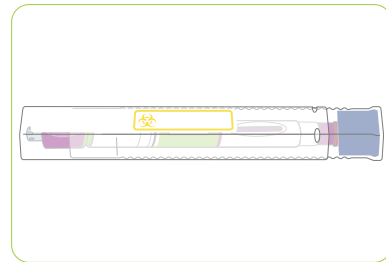
※廃棄ケースには、使用済みのオートインジェクターが1本収納できます。



① オートインジェクター本体をスポンジの入っている細い廃棄ケースに、キャップを太い廃棄ケースに入れてください。



② ケース同士を差し込み、オートインジェクター本体が奥にあたるまでしっかりと押し込んでください。



③ 廃棄ケースは、次回通院される際に医療機関へお持ちください。



● 針刺し事故を防ぐため、キャップはオートインジェクターに戻さず、そのまま廃棄ケースに入れてください。

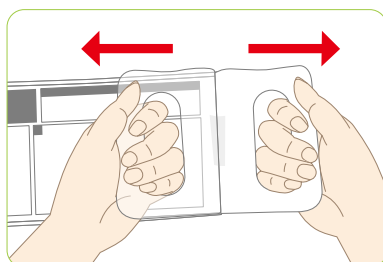
● 使用済みのオートインジェクターは医療廃棄物です。

絶対にご自分で廃棄せず、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示に従って処理し、取り扱いには十分注意してください。ご家族、特に小さなお子さんがさわらないようにご注意ください。

注射が終わったら(オートインジェクター)

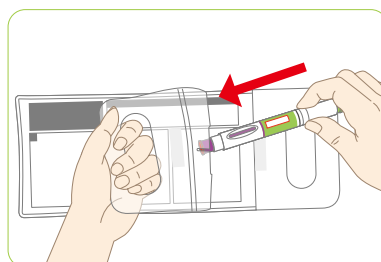
廃棄袋の場合

※廃棄袋には、使用済みのオートインジェクターが最大4本収納できます。

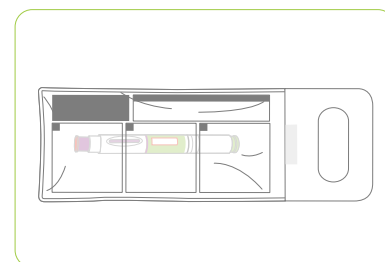


① 袋の取っ手を持って、両側に開いてください。

※力を入れ過ぎて袋を破かないように注意してください。



② 開いた袋の中央の穴に使用済みのオートインジェクターを先端から入れてください。このとき針側の先端には触れないでください。



③ オートインジェクターを袋に入れたら、取っ手を閉じてください。その際、マジックテープがしっかり付いているか確認してください。



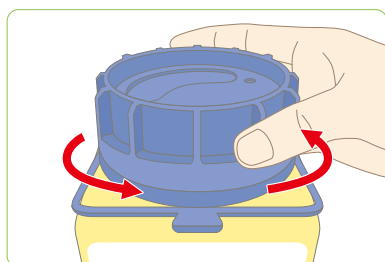
● 針刺し事故を防ぐため、キャップはオートインジェクターに戻さないでください。廃棄袋にキャップを入れるスペースがない場合は、キャップは家庭ごみとして各市区町村の収集方法に従って捨ててください。

● 使用済みのオートインジェクターは医療廃棄物です。

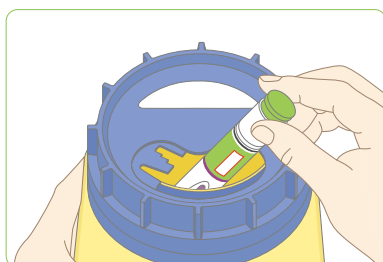
絶対にご自分で廃棄せず、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示に従って処理し、取り扱いには十分注意してください。ご家族、特に小さなお子さんがさわらないようにご注意ください。

廃棄ボックスの場合

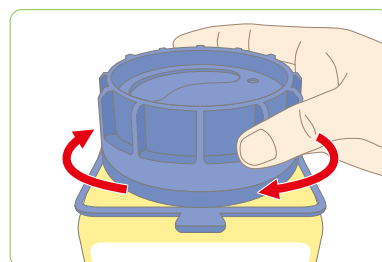
※廃棄ボックスには、使用済みのオートインジェクターが最大18本収納できます。



1 廃棄ボックスのフタを「ひらく」の方向に回し、廃棄口を開けます。



2 廃棄口に使用済みのオートインジェクターとキャップを入れてください。このとき針側の先端には触れないでください。



3 オートインジェクターとキャップを廃棄ボックスに入れたら、フタを「とじる」の方向に回し、廃棄口を閉じてください。



- 針刺し事故を防ぐため、キャップはオートインジェクターに戻さず、そのまま廃棄ボックスに入れてください。
- フタは完全にロックすると開かなくなります。医療機関に持参するときまでは、完全にロックしないように気をつけて使用してください。
- 使用済みのオートインジェクターは医療廃棄物です。絶対にご自分で廃棄せず、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示に従って処理し、取り扱いには十分注意してください。ご家族、特に小さなお子さんがさわらないようにご注意ください。

28

指導のポイント

- 廃棄ボックスの場合、フタを完全にロックすると開かなくなりますので、医療機関に持参するときまでは完全にロックしないよう、患者さんにご指導ください。

注射が終わったら(オートインジェクター)

体調をチェックし、注射の記録をつけましょう

注射の記録

注射が終わったら、注射した日時と注射した部位を体調チェック表に記録します。この記録により、次回の注射予定日や注射部位を確認することができます。
なお、通院時には体調チェック表を持参しましょう。

記録例

※ご本人が記入できない場合は、ご家族や代理の方がご記入ください。

第1週	使用日	使用方法			からだの状態						検査値・その他
		点滴	皮下注射	皮下注射の注射部位	体温	SpO ₂	せき・痰	息切れ	胸の痛み	注射部位の異常	【吐き気、下痢、腹痛、皮膚やかゆみなど 必要に応じて記入ください。】
	7/2 (日)		○		36.5℃	98				少し赤くなった	
	7/3 (火)				36.7℃	97	○				くしゃみがでる
	7/4 (水)				36.0℃	99					
	/ (木)										
	/ (金)				℃						
	/ (土)				℃						
	/ (日)				℃						

注射した部位をチェックします。

注射部位に反応や異常がみられた場合は記入します。

健康状態を記録します。
また、注射に関して気になることが
ある場合は記入します。



- 注射後に体調の不良がみられた場合は、すぐに医療機関に連絡してください。
発熱、吐き気、発疹、腫れ、かゆみ、出血などが発現する可能性があります。
- 自己注射を実施している場合でも、体調の変化を確認し適切な治療を行うために、定期的に主治医の診察を受ける必要があります。

指導のポイント

- 注射後の患者さんによる記録は、治療をすすめる上で重要な情報となりますので、必ず体調チェック表にご記入いただき、診察時には医療機関へ持参するようにご指導ください。
- 自己注射を実施している場合も定期的に医師の診察を受ける必要があることをご指導ください。
- 体調の不良がみられた場合は、すぐに医療機関に連絡するようにご指導ください。

MEMO

オートインジェクター

注射器（シリンジ）

Q & A

30

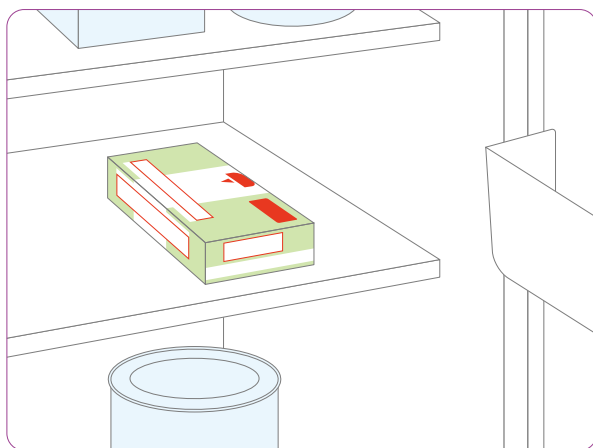
お薬の保管方法(シリンジ)

お薬の保管方法

注射器(シリンジ)は、病院・薬局から帰宅後速やかに、箱のまま冷蔵庫^{※1}(2～8℃)で保管してください。
やむを得ず室温(30℃以下)で保存する場合は、14日以内に使用してください。14日以内に使用しない場合は、再度冷蔵保存(2～8℃)することも可能ですが、室温での保存が累積^{※2}14日を超えた場合には破棄してください。

※1 チルド室、野菜室、冷気の吹き出し口付近には入れないでください。(お薬が凍結してしまうおそれがあります)

※2 室温保存した合計日数



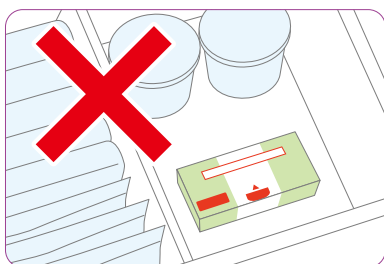
注射器(シリンジ)は、箱のまま冷蔵庫で保管してください。

31

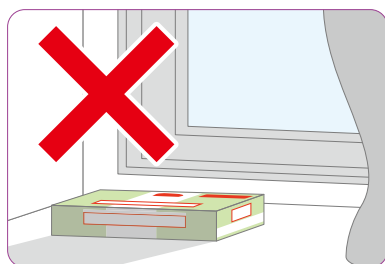
指導のポイント

- 冷蔵庫での保管を守っていただき、薬剤が冷蔵庫に保管されていることをご家族全員に伝えていただくようにご指導ください。
- やむを得ず室温(30℃以下)で保存する場合は、14日以内に使用するようにご指導ください。

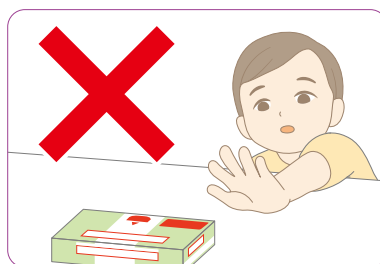
保管に関する注意



冷凍庫には入れないでください。
(お薬が凍結してしまうおそれがあります)



直射日光の当たる場所に置かないでください。
(お薬が変性してしまうおそれがあります)



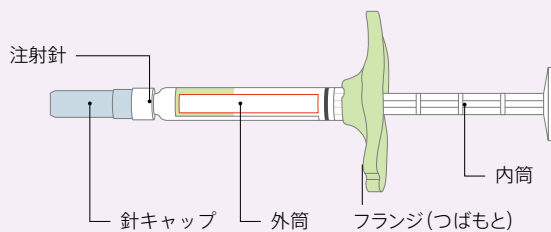
- お薬の入った箱が冷蔵庫内に保管されていることを、ご家族全員に伝えてください。
- 特に、小さなお子さんがいるご家庭では、お子さんがお薬の箱やシリンジにさわることがないように十分ご注意ください。

注射の前に(シリンジ)

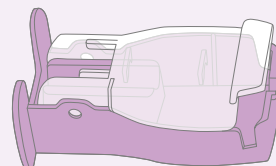
注射に必要なもの

●注射器(シリンジ) ●準備マット ●アルコール綿 ●注射補助具(アクテミー) ●廃棄ボックス ●体調

●シリンジ

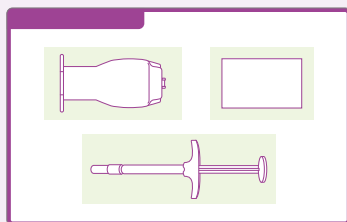


●注射補助具(アクテミー)

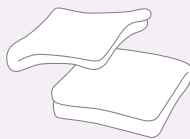


必要な患者さんのみ医療機関から提供されます。

●準備マット



●アルコール綿



医療機関から提供されない場合は主治医または看護師にご相談ください。

33

指導のポイント

- 患者さんに、ご使用になるシリンジの仕組みをしっかりご理解いただき、注射に必要な器具とその用途を覚えていただくようにご指導ください。

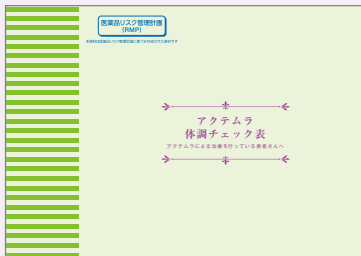
チェック表

●廃棄ボックス



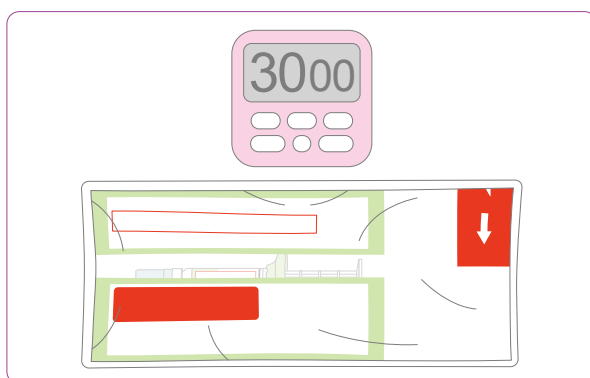
廃棄容器として医療機関
から提供されます。

●体調チェック表



注射の前に(シリンジ)

注射の準備



① シリンジの入った箱を冷蔵庫から取り出し、箱からシリンジを出して、30分かけて室温に戻します。



② 注射する場所は、明るく、安定したテーブルを使います。テーブルの表面を清潔にします。



- 室温に戻している間は、シリンジが入っている袋を開けないでください。
- 電子レンジや湯せんでシリンジを温めないでください。
- シリンジを振らないでください。

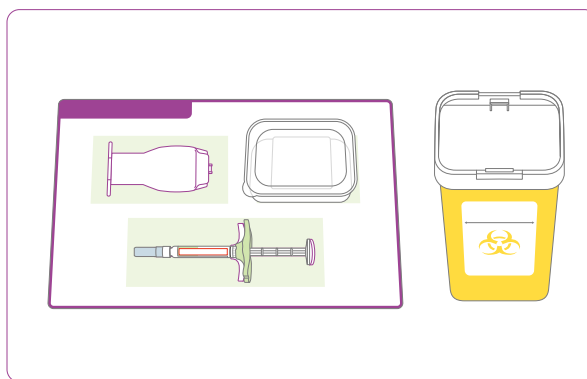
35

指導のポイント

- シリンジを室温に戻す際には、箱からシリンジが入っている包装を出すようにご指導ください。
- 注射は、常に清潔な場所で行うようにご指導ください。



3 両手を石鹸で十分に洗い、清潔なタオルで拭きます。



4 シリンジを室温に戻したら、袋からシリンジ本体を取り出します。
テーブルに準備マットを敷き、イラストの上に自己注射に使用する器具一式を並べます。
シリンジ、アルコール綿、そして廃棄ボックスが揃っているかを確認します。



●この時点では、まだシリンジのキャップをはずさないでください。

36

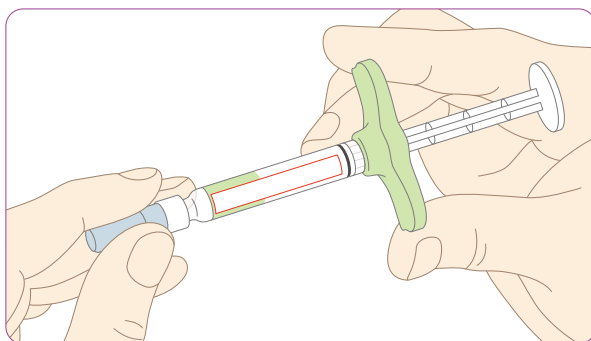
指導のポイント

- 衛生面の観点から、シリンジが入っている包装は注射の直前に開封するようにご指導ください。
- 清潔保持と針刺し事故防止のため、注射の直前まではシリンジのキャップをはずして注射針をさらしたり、誤って指で触れないようにご指導ください。

注射のしかた(シリンジ)

注射前のシリンジと薬液の確認

注射の前にシリンジと薬液について異常がないかを確認します。



以下の場合、使用せずに医療機関に連絡してください。



- シリンジが破損している。
- シリンジのラベルに記載されている使用期限が切れている。
- 薬液が濁っている。
- 薬液が変色している。
(通常は、無色透明～微黄色)
- 薬液に異物が混じっている。
(薬液中に気泡が見られることがありますが、問題ありません)

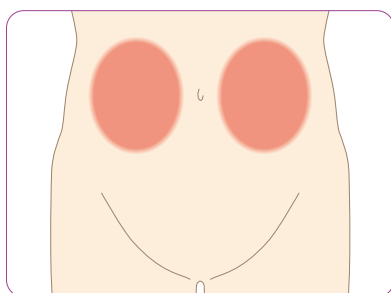
37

指導のポイント

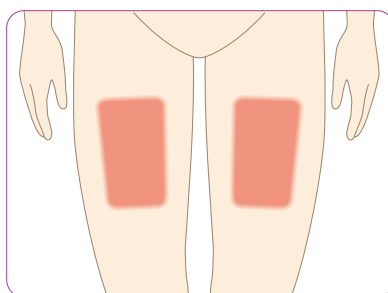
- シリンジには、あらかじめ1回の注射に適した薬液量が充填されています。空気抜きは必要ありませんので、注射前に誤って薬液を排出しないようにご指導ください。
- 患者さんやご家族が、自己判断で薬液量を調節することのないようにご指導ください。

注射する部位の確認と消毒

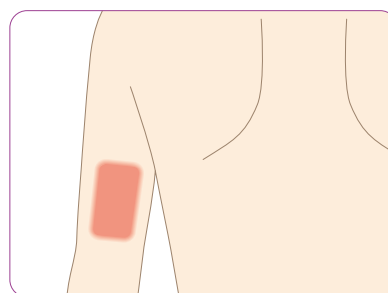
「腹部」「大腿部(太もも)」「上腕部(二の腕)」のいずれかに注射することが可能です。
どこに注射するかは主治医または看護師の指示に従います。



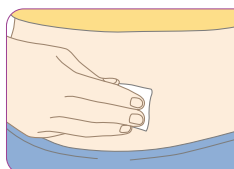
腹部



大腿部



上腕部



注射する部位とその周辺を、アルコール綿で十分に消毒します。消毒したところは、注射するまで手を触れないでください。



- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適しません。
- 医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。

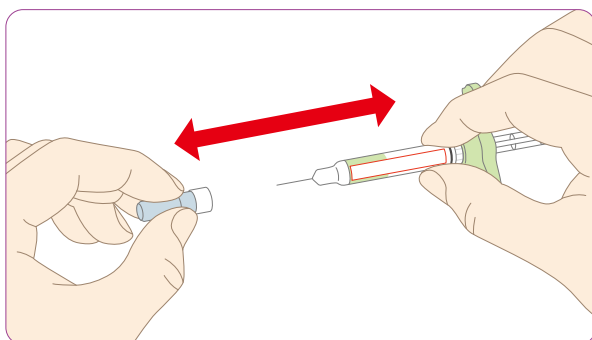
38

指導のポイント

- 他の製剤を併用している場合や継続して自己注射を行っている場合は、注射部位をよく観察し、適切な部位を選ぶようにご指導ください。
- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していないこと、上腕部に注射する場合は、医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いすることをご指導ください。

注射のしかた(シリンジ)

基本的な注射のしかた



- ① シリンジのキャップをはずします。
シリンジ本体を横にして持ち、本体を動かさずに針キャップのみをまっすぐ引っ張るようにしてはずします。針キャップをはずす際は、注射針を曲げないように注意してください。



● 内筒を引っ張らないでください。



● 内筒を押さないでください。



● 針キャップを片手ではずそうとしないでください。

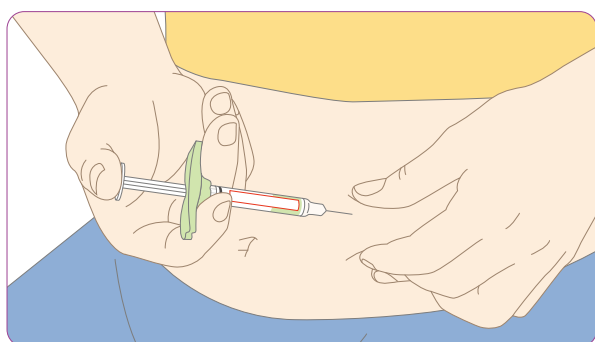


● 針キャップを斜めにはずさないでください。

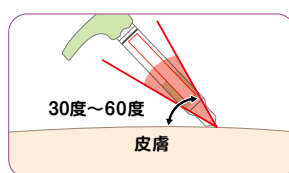


● 針先に指など他のものが触れて、誤って指を刺したり、注射針を曲げないようにしてください。

● 針キャップをはずしたら、すぐに注射してください。
薬液が針先で固まるおそれがあります。



● 注射の角度



- 2 消毒した注射部位の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。
このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。



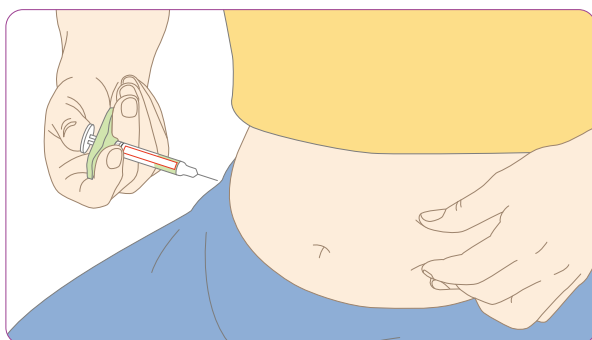
● 内筒が硬くて押せないなど、抵抗を感じる場合は、無理に注射しないで、医療機関に連絡してください。

指導のポイント

- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようにご指導ください。
- 自己注射を安全に行うために、正しい注射針の刺入角度、深度などをご指導ください。

注射のしかた(シリンジ)

基本的な注射のしかた(続き)



- ③** 薬液が空になったことを確認して、刺したときと同じ角度で注射針をすばやく皮膚から抜きます。
その後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。
アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。



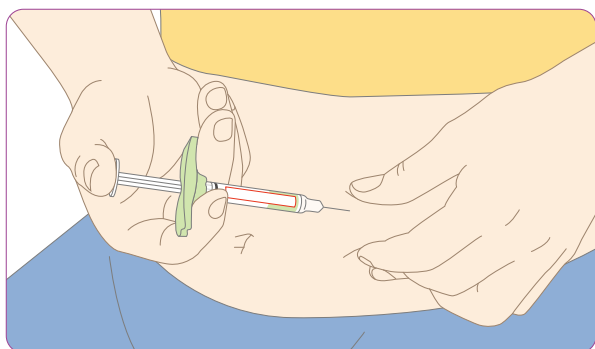
- 注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。



注射のしかた(シリンジ) 腹部

腹部への注射

● 前から見た腹部への注射のしかた



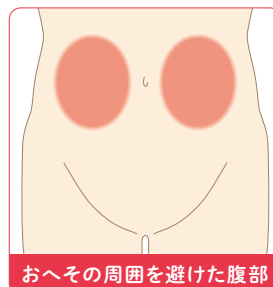
消毒した腹部の皮膚をしっかり持ち上げて、皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。
そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。



● 内筒が硬くて押せないなど、抵抗を感じる場合は、無理に注射しないで、医療機関に連絡してください。

注射すべき部位

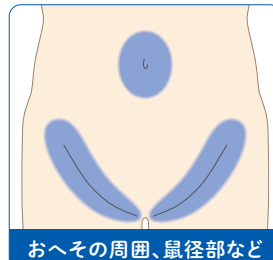
- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



おへその周囲を避けた腹部

避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。



おへその周囲、鼠径部など

指導のポイント

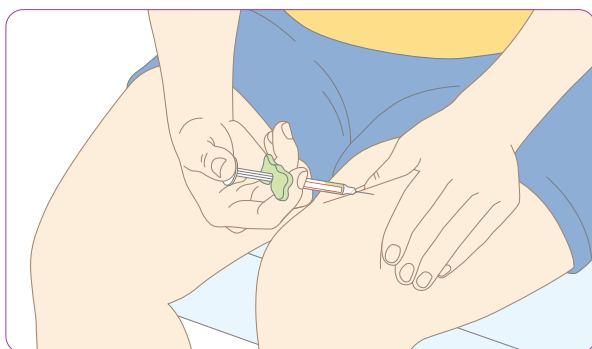
- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようにご指導ください。

注射のしかた(シリンジ) 大腿部



大腿部(太もも)への注射

大腿部に注射する場合は、シリンジを押し付けず、もう片方の手で皮膚をしっかり持ち上げて注射してください。



消毒した大腿部の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。

※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

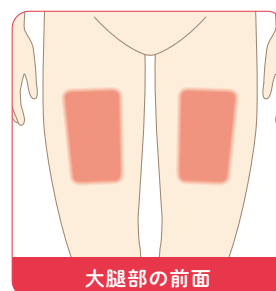


● やせている方で大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は推奨できません。



注射すべき部位

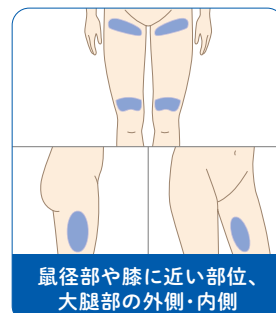
- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



大腿部の前面

避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。



鼠径部や膝に近い部位、
大腿部の外側・内側

43

指導のポイント

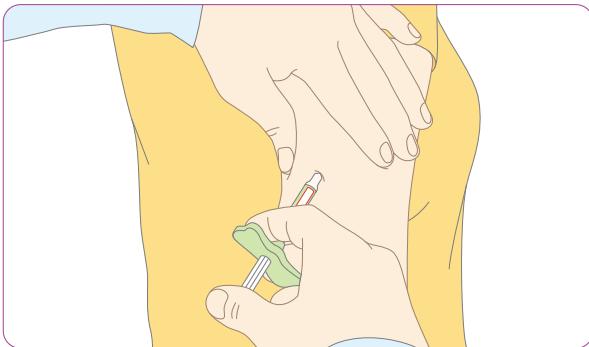
- 大腿部に注射する場合、適切な部位に注射するようご指導ください。
- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようにご指導ください。

注射のしかた（シリンジ） 上腕部



上腕部への注射

上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していません。
医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いしてください。



ご家族の方が、消毒した上腕部（力こぶができない側のやわらかい部位）の皮膚をしっかり持ち上げます。皮膚に対して注射針を斜め30度から60度の角度で刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。

そのままシリンジをしっかり持ち、同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。

※注射方法は、必ず主治医の指示に従ってください。

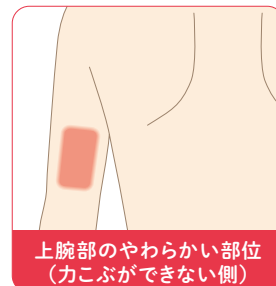


● やせている方で上腕部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は適しません。



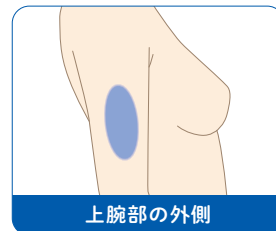
注射すべき部位

- 前回と同じ場所には注射しないでください。
- 前回の注射部位から3cm以上離れたところに注射してください。



避けるべき部位

- 皮膚が赤い、傷がある、硬くなっている部位には注射しないでください。

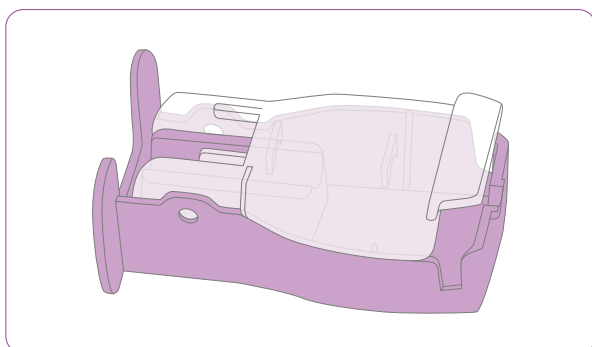


指導のポイント

- 上腕部への注射は力こぶができない側に行うため、自己注射には適していないこと、上腕部に注射する場合は、医療機関もしくはご家族の方に注射をお願いすることをご指導ください。
- 上腕部に注射する場合、適切な部位に注射するようご指導ください。
- 安定した注射部位を確保するために、必ず皮膚をしっかり持ち上げてから注射するようご指導ください。
- 皮下脂肪が少ない部位へ注射すると、注射針が骨に接触する可能性があります。やせていて上腕部の皮下脂肪が少ない患者さんには、この注射方法は推奨できません。

注射のしかた(シリンジ) 注射補助具(アクテミー)を使う場合

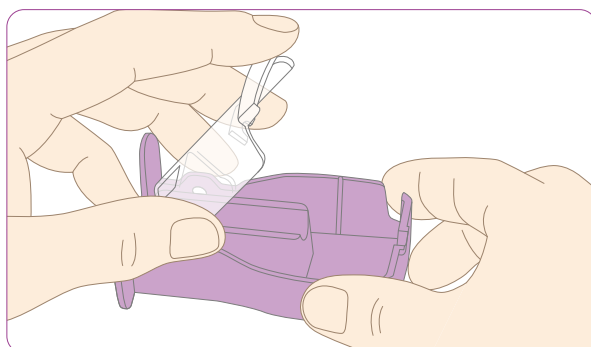
注射補助具(アクテミー)が必要な方は、医療機関にお問い合わせください。



自己注射を安全に行っていただくためのサポートとして、アクテムラ専用自己注射補助具(アクテミー)があります。

アクテミーをご使用いただくことで、以下が可能になります。

- 針キャップを安全にはずす
- 注射する際にシリンジを固定する
- 注射針が入る深さを一定にする



- 1 注射補助具をテーブルなどの広く安定した場所に置き、本体をしっかり押さえて、プッシュカバーを開きます。

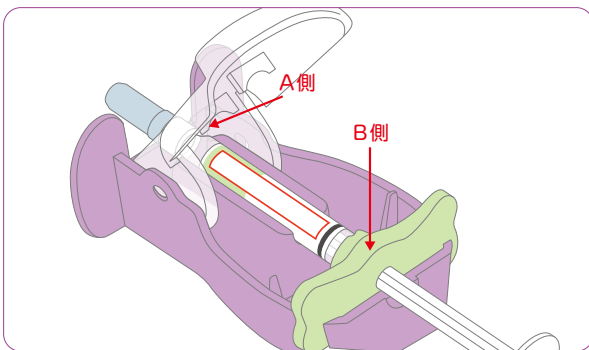


● 注射補助具は、腹部または大腿部に注射する際にのみ、ご使用ください。

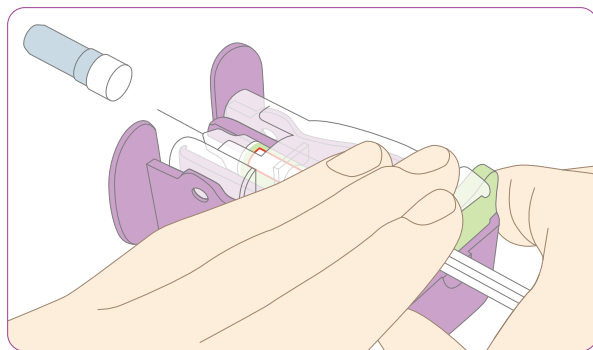
45

指導のポイント

- 注射補助具(アクテミー)は、腹部もしくは大腿部に注射する際にのみ、使用可能であることをご指導ください。
- アクテミーを使用する際は、注射針を90度の角度でまっすぐ刺すことをご指導ください。



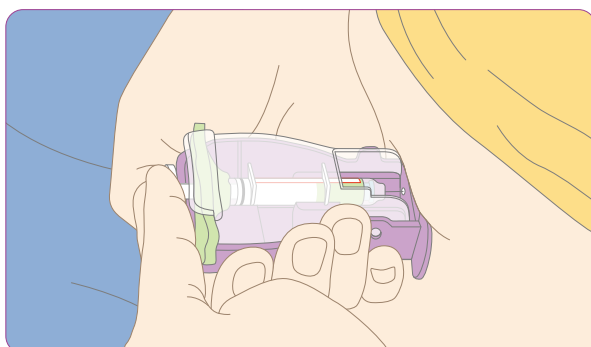
② 針キャップを付けたままシリンジを斜めに差し込み、針先をA側に置き、次に黄緑色のフランジ（つまもと）をB側の溝に置きます。



③ 本体をしっかりと押さえながらプッシュカバーを下げ、しっかり閉じると針キャップがはずれます。

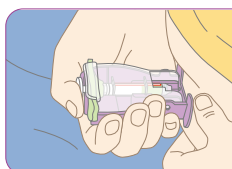
注射のしかた(シリンジ) 注射補助具(アクテミー)を使う場合

注射補助具(アクテミー)が必要な方は、医療機関にお問い合わせください。

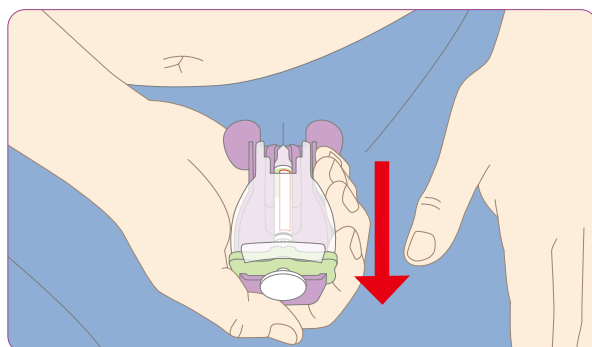


- ④ 消毒した皮膚をしっかりと持ち上げて、注射補助具をしっかりと持って注射針を皮膚に対して90度の角度でまっすぐ刺します。このとき、針が全部見えなくなり、根元まで入っていることを確認してください。

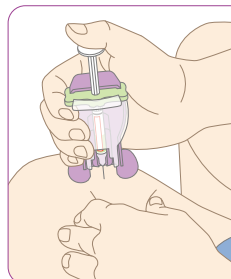
そのまま注射補助具をしっかりと持ち、もう片方の手で同じ角度を保ちながら、内筒を最後までゆっくりと押し切ります。



注射補助具を持った手の指で内筒を押し、片手で注射することもできます。



- ⑤ 注射が終わったら、注射補助具を、刺したときと同じ角度でまっすぐ引き抜きます。

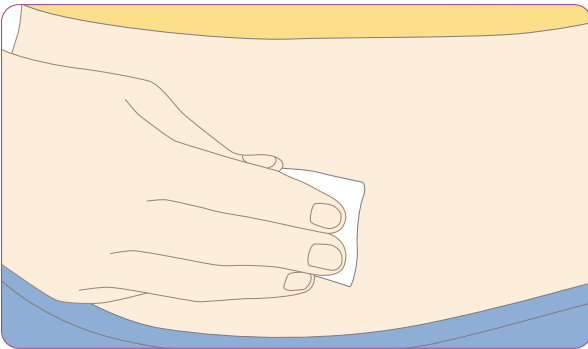


- アクテミーを使用して大腿部へ注射することもできます。大腿部への注射の場合は、皮下脂肪内に確実に注射できるように片手でしっかりと皮膚を持ち上げて注射を行ってください。
- やせている方で大腿部の皮下脂肪が著しく少ない方には、この注射方法は推奨できません。

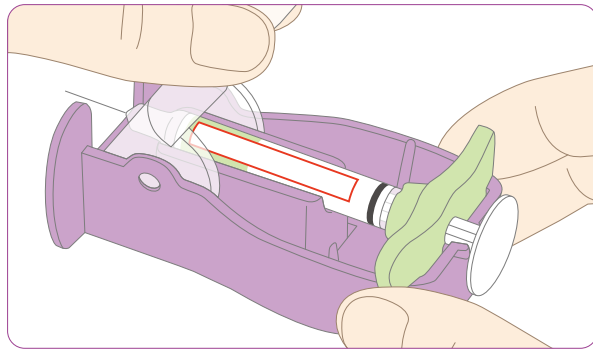
47

指導のポイント

- 注射補助具(アクテミー)は、腹部もしくは大腿部に注射する際にのみ、使用可能であることをご指導ください。
- アクテミーを使用する際は、注射針を90度の角度でまっすぐ刺すことをご指導ください。



- 6** 注射針を抜いた後、注射部位を新しいアルコール綿で10秒間ほど押さえます。
アルコール綿をはずして、注射部位から血が出ていないことを確認し、注射は終了です。
腫れがひかない、出血が止まらないなどの異常がみられたら、医療機関に連絡してください。



- 7** 注射補助具を広く安定した場所に置き、本体をしっかりと押さえて、プッシュカバーを開きます。セットしたときと逆の手順で、まずシリンジのフランジ（つばもと）を溝からはずし、シリンジを斜めにして取り出します。このとき、危険ですので針先に触れないように十分注意してください。



● 注射した部位をもむと腫れることがあるので、もまないでください。

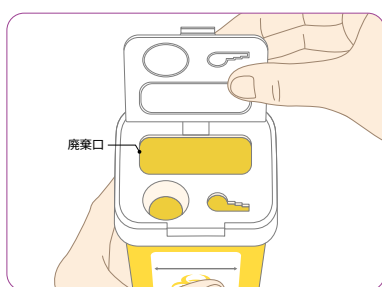


注射が終わったら(シリンジ)

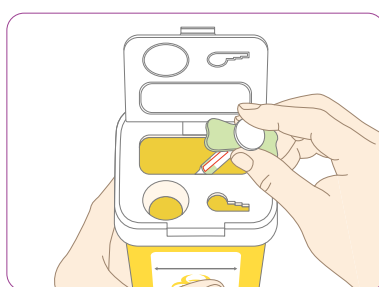
シリンジの廃棄

※廃棄ボックスには、使用済みのシリンジが約10本収納できます。

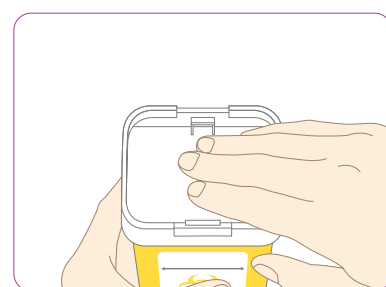
使い終わったシリンジは、廃棄ボックスにすぐに廃棄します。



① 廃棄ボックスのフタを開けます。



② 廃棄口に使用済みのシリンジと針キャップを入れてください。このとき針側の先端には触れないでください。



③ シリンジ、針キャップを廃棄ボックスに入れたら、フタを閉じてください。



- 針刺し事故を防ぐため、針キャップはシリンジに戻さず、そのまま廃棄ボックスに入れてください。
- 使用済みのシリンジは医療廃棄物です。絶対にご自分で廃棄せず、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示に従って処理、取り扱いには十分注意してください。ご家族、特に小さなお子さんがさわらないようにご注意ください。

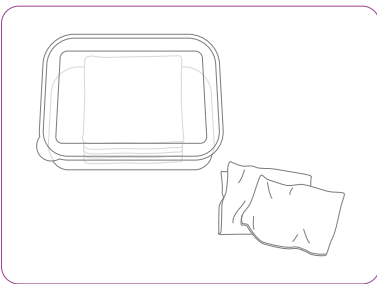


- フタは完全に閉じるとロックされ、開かなくなります。医療機関へ持参するときまでは、完全に閉じないように気をつけて使用してください。

49

指導のポイント

- 使用済みのシリンジは医療廃棄物です。注射針による針刺し事故などを防止するため、医療廃棄物の管理には十分注意し、必ず医療機関へ持参するようにご指導ください。
- 廃棄ボックスは、フタを完全に閉じるとロックされ、開かなくなりますので、医療機関に持参するときまではフタを完全に閉じてロックしないよう、患者さんにご指導ください。



- 4 使用済みのアルコール綿は、主治医、看護師、薬剤師または医療機関の指示が特にない限り、家庭ごみとして各市区町村の収集方法に従って捨ててください。

注射が終わったら(シリンジ)

体調をチェックし、注射の記録をつけましょう

注射の記録

注射が終わったら、注射した日時と注射した部位を体調チェック表に記録します。この記録により、次回の注射予定日や注射部位を確認することができます。
なお、通院時には体調チェック表を持参しましょう。

記録例

※ご本人が記入できない場合は、ご家族や代理の方がご記入ください。

第1週	使用日	使用方法		からだの状態					検査値・その他 【吐き気、下痢、腹痛、皮膚やかゆみなど】 必要に応じて記入ください。
		点滴	皮下注射	皮下注射の注射部位	体温	SpO ₂	せき・痰	息切れ	
	7/2 (日)		○		36.5℃	98			少し赤くなった
	7/3 (月)				36.7℃	97	○		くしゃみがでる
	7/4 (火)				36.0℃	99			
	/ (水)				℃				
	/ (木)				℃				
	/ (金)				℃				
	/ (土)				℃				

注射した部位をチェックします。

注射部位に反応や異常がみられた場合は記入します。

健康状態を記録します。
また、注射に関して気になることが
ある場合は記入します。



- 注射後に体調の不良がみられた場合は、すぐに医療機関に連絡してください。
発熱、吐き気、発疹、腫れ、かゆみ、出血などが発現する可能性があります。
- 自己注射を実施している場合でも、体調の変化を確認し適切な治療を行うために、定期的に主治医の診察を受けることが必要です。

指導のポイント

- 注射後の患者さんによる記録は、治療をすすめる上で重要な情報となりますので、必ず体調チェック表にご記入いただき、診察時には医療機関へ持参するようにご指導ください。
- 自己注射を実施している場合も定期的に医師の診察を受ける必要があることをご指導ください。
- 体調の不良がみられた場合は、すぐに医療機関に連絡するようにご指導ください。

MEMO

オートインジェクター

注射器（シリンジ）

Q & A

52

Q&A

よくあるご質問をご参照ください。

Q 注射する時間帯に決まりはありますか？

A 注射する時間は特に定められていません。
ただし、注射を忘れないようにするために、毎回同じ時間に決めておいたほうがよいでしょう。

Q 注射の前に体調の変化があったら、どうしたらよいですか？

A かぜ気味である、熱っぽいなど、体調に変化を感じた場合は注射をやめて、主治医に連絡し指示を受けてください。

Q どのような体調に注意したらよいですか？

A 注射の前後にかかわらず、せきやたんが出るといった症状には特に注意してください。症状があらわれたら、すぐに主治医に連絡してください。

Q 注射の予定日に注射できなかった場合は？

A 主治医または看護師に連絡して指示を受けてください。

53

指導のポイント

- ここに記載のある疑問点以外にも、アクテムラ皮下注の自己注射に関してわからない点や不安な点がある場合は、主治医、看護師、薬剤師に連絡するようにご指導ください。
- 自己注射を実施している場合でも、体調の変化を確認し適切な治療を行うために、定期的に主治医の診察を受ける必要があることをご指導ください。
- 体調の不良がみられた場合は、すぐに医療機関に連絡するようにご指導ください。

オートインジェクターの注入ボタン

Q (緑色)が押せない場合は、
どうしたらよいですか？

A

安全カバー（赤い部分）が注射部位にしっかり押しあてられていない可能性があります。安全カバーの紫の部分が見えなくなるまで押しあてると、注入ボタンを押すことができます。

Q 薬液が目や傷口に
入ってしまったら？

A

薬液が目などの別の部位に入ってしまった場合は、すぐに水で洗い流し、しばらく様子をみてください。いつもと違うと感じた場合は、主治医に連絡し指示を受けてください。

Q 注射した部位が腫れたり、
かゆくなってしまったときには？

A

主治医に連絡して指示を受けてください。

●自己注射の手技に関するお問い合わせについては、「アクテムラ®自己注射サポートセンター」で受け付けています。

自己注射の手技に関するお問い合わせ

アクテムラ®自己注射サポートセンター



0120-229-790

24時間受付・通話無料

製造販売元



中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

【文献請求先及び問い合わせ先】 メディカルインフォメーション部
TEL.0120-189-706 FAX.0120-189-705

【販売情報提供活動に関する問い合わせ先】
<https://www.chugai-pharm.co.jp/guideline/>

 ロシュ グループ